

多職種連携

多職種連携演習（福祉マネジメント学科）

[講義・演習] 第3学年 前期 必修
1単位

《履修上の留意事項》 演習への積極的な参加と自らの行動の振り返りに重点を置くため、評価基準でリフレクションシートの配点が高い。
欠席回は配点されないため、欠席しないように留意すること。

《担当者名》 本家寿洋（リハ）honke@hoku-iryo-u.ac.jp ○巻康弘（福）maki@hoku-iryo-u.ac.jp 近藤尚也（福）鈴木和（福）鈴木真人（福）宮地普子（看）明野伸次（看）内ヶ島伸也（看）若濱奈々子（看）用田歩（リハ）若松千裕（リハ）武田涼子（リハ）澤田篤史（リハ）佐藤一成（リハ）鎌田樹寛（リハ）坂上哲可（リハ）鈴木瑞恵（リハ）大須田祐亮（リハ）飯泉智子（リハ）柳田早織（リハ）齋藤隆司（リハ）
（科目主担当、○学科主担当）

【概要】

医学的な視点のみならず、対象者の心理的・社会的な視点にも配慮した医療が求められる中でチーム医療は必須の手段であり、より良いサービスを実践するためには多職種との有機的な連携と協業は欠かせない。本講義では、専門職種間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実際についてそれぞれの専門的な立場から考察し、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。また、学部学科をこえたグループワーク演習を通じ、コミュニケーションやディスカッションの実践力を身につける。

【学修目標】

医療や福祉の現場で他の専門職種と連携協業していくために、必要な知識や態度、コミュニケーション技術を身につける。

1. 対象者を中心とした視点が持てる。
2. 専門職の教育背景が異なることを配慮して他学科の学生と意見交換ができる。
3. グループ内で信頼関係を築ける。
4. それぞれの専門職の役割を理解し、説明できる。
5. 議論を円滑に進めるために協力することができる。
6. 自分自身のふるまいを省察し、考えや価値観を再構築できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 }	オリエンテーション	授業の進め方、課題の提出方法などについて理解する。アイスブレイキングを通してグループメンバーを理解する。	全担当教員
2	オリエンテーション（Aクラス）	授業の進め方、課題の提出方法などについて理解する。アイスブレイキングを通してグループメンバーを理解する。	福祉マネジメント学科 :巻
	オリエンテーション（Bクラス）	授業の進め方、課題の提出方法などについて理解する。アイスブレイキングを通してグループメンバーを理解する。	福祉マネジメント学科 :近藤
	オリエンテーション（Cクラス）	授業の進め方、課題の提出方法などについて理解する。アイスブレイキングを通してグループメンバーを理解する。	福祉マネジメント学科 :鈴木和
	オリエンテーション（Dクラス）	授業の進め方、課題の提出方法などについて理解する。アイスブレイキングを通してグループメンバーを理解する。	福祉マネジメント学科 :鈴木真人
3	多職種連携の必要性と私たち・多職種連携に関わる各職種の役割	多職種連携が求められる背景、その重要性および病院や地域において多職種連携に関わる各職種の役割について学ぶ。	オンデマンド
4	多職種連携に必要な技術1	多職種で行う情報交換、意思決定の方法とディスカッションを円滑に進めるファシリテーターの役割について学ぶ。	オンデマンド
5	多職種連携に必要な技術2・3	多職種が連携することで生じるコンフリクトに対するマネジメント方法および医療、保健、福祉の共通言語であるICFにしたがって情報を整理する方法について学ぶ。	オンデマンド(巻)

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
6)	多職種連携演習	オンデマンド授業で学んだ多職種連携に必要な技術を用いた演習を通じて円滑な議論の進め方を学ぶ。	全担当教員
7	多職種連携演習 (Aクラス)	オンデマンド授業で学んだ多職種連携に必要な技術を用いた演習を通じて円滑な議論の進め方を学ぶ。	福祉マネジメント学科 :巻
	多職種連携演習 (Bクラス)	オンデマンド授業で学んだ多職種連携に必要な技術を用いた演習を通じて円滑な議論の進め方を学ぶ。	福祉マネジメント学科 :近藤
	多職種連携演習 (Cクラス)	オンデマンド授業で学んだ多職種連携に必要な技術を用いた演習を通じて円滑な議論の進め方を学ぶ。	福祉マネジメント学科 :鈴木和
	多職種連携演習 (Dクラス)	オンデマンド授業で学んだ多職種連携に必要な技術を用いた演習を通じて円滑な議論の進め方を学ぶ。	福祉マネジメント学科 :鈴木真人
8)	多職種連携演習	複雑化したニーズを抱える事例をもとに、課題となる点や介入方法を検討する。また、次回から開始する脳卒中発症後1か月でリハビリテーション病院に転院し、6か月後の退院を目指した模擬事例をグループメンバーで情報を共有する。	全担当教員
9	多職種連携演習 (Aクラス)	複雑な課題を抱えた模擬事例をもとに、課題となる点や介入方法を検討する。また、次回から開始する脳卒中発症後1か月でリハビリテーション病院に転院し、6か月後の退院を目指した模擬事例をグループメンバーで情報を共有する。	福祉マネジメント学科 :巻
	多職種連携演習 (Bクラス)	複雑な課題を抱えた模擬事例をもとに、課題となる点や介入方法を検討する。また、次回から開始する脳卒中発症後1か月でリハビリテーション病院に転院し、6か月後の退院を目指した模擬事例をグループメンバーで情報を共有する。	福祉マネジメント学科 :近藤
	多職種連携演習 (Cクラス)	複雑な課題を抱えた模擬事例をもとに、課題となる点や介入方法を検討する。また、次回から開始する脳卒中発症後1か月でリハビリテーション病院に転院し、6か月後の退院を目指した模擬事例をグループメンバーで情報を共有する。	福祉マネジメント学科 :鈴木和
	多職種連携演習 (Dクラス)	複雑な課題を抱えた模擬事例をもとに、課題となる点や介入方法を検討する。また、次回から開始する脳卒中発症後1か月でリハビリテーション病院に転院し、6か月後の退院を目指した模擬事例をグループメンバーで情報を共有する。	福祉マネジメント学科 :鈴木真人
10)	多職種連携演習	脳卒中発症後1か月でリハビリテーション病院に転院し、6か月後の退院を目指した模擬事例を使用して、退院の方向性や2か月後までの各職種の役割分担をグループメンバーで検討する。	全担当教員 特別講師：星野由利子、 上田学、橋本恭尚
11	多職種連携演習 (Aクラス)	脳卒中発症後1か月でリハビリテーション病院に転院し、6か月後の退院を目指した模擬事例を使用して、退院の方向性や2か月後までの各職種の役割分担をグループメンバーで検討する。	福祉マネジメント学科 :巻
	多職種連携演習 (Bクラス)	脳卒中発症後1か月でリハビリテーション病院に転院し、6か月後の退院を目指した模擬事例を使用して、退院の方向性や2か月後までの各職種の役割分担をグループメンバーで検討する。	福祉マネジメント学科 :近藤
	多職種連携演習 (Cクラス)	脳卒中発症後1か月でリハビリテーション病院に転院し、6か月後の退院を目指した模擬事例を使用して、退院の方向性や2か月後までの各職種の役割分担をグループメンバーで検討する。	福祉マネジメント学科 :鈴木和
	多職種連携演習 (Dクラス)	脳卒中発症後1か月でリハビリテーション病院に転院し、6か月後の退院を目指した模擬事例を使用して、退院の方向性や2か月後までの各職種の役割分担をグループメンバーで検討する。	福祉マネジメント学科 :鈴木真人
12	多職種連携演習	リハビリテーション病棟入棟後2か月経過した模擬事	全担当教員

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
13		例の、5か月後までの解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。	特別講師：星野由利子、上田学、橋本恭尚
	多職種連携演習 (Aクラス)	リハビリテーション病棟入棟後2か月経過した模擬事例の、5か月後までの解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。	福祉マネジメント学科：巻
	多職種連携演習 (Bクラス)	リハビリテーション病棟入棟後2か月経過した模擬事例の、5か月後までの解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。	福祉マネジメント学科：近藤
	多職種連携演習 (Cクラス)	リハビリテーション病棟入棟後2か月経過した模擬事例の、5か月後までの解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。	福祉マネジメント学科：鈴木和
	多職種連携演習 (Dクラス)	リハビリテーション病棟入棟後2か月経過した模擬事例の、5か月後までの解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。	福祉マネジメント学科：鈴木真人
14 15	多職種連携演習	リハビリテーション病棟入棟後5か月が経過した模擬事例の通院後の解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。	全担当教員 特別講師：星野由利子、上田学、橋本恭尚
	多職種連携演習 (Aクラス)	リハビリテーション病棟入棟後5か月が経過した模擬事例の通院後の解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。	福祉マネジメント学科：巻
	多職種連携演習 (Bクラス)	リハビリテーション病棟入棟後5か月が経過した模擬事例の通院後の解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。	福祉マネジメント学科：近藤
	多職種連携演習 (Cクラス)	リハビリテーション病棟入棟後5か月が経過した模擬事例の通院後の解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。	福祉マネジメント学科：鈴木和
	多職種連携演習 (Dクラス)	リハビリテーション病棟入棟後5か月が経過した模擬事例の通院後の解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。	福祉マネジメント学科：鈴木真人

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

小テスト50%、演習後のリフレクションシート50%

【教科書】

授業前に配信する

【参考書】

篠田道子 著 「多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル」 医学書院 2011年
 埼玉県立大学 編 「IPWを学ぶ-利用者中心の保健医療福祉連携」 中央法規出版 2009年
 北島政樹 著 「医療福祉をつなぐ関連職種連携-講義と実習にもとづく学習のすべて」 南江堂 2013年

【備考】

1. 3回分のオンデマンド授業を視聴し、視聴後に小テストを必ず受けること。
2. 演習 ~ のグループワークは、 限2コマ授業を原則とし、開講日は別途指示する。

【学修の準備】

1. オンデマンド講義や演習の予習は、事前に配布される資料を読むことや、関連する内容の教科書を読んだうえで参加すること（2時間）。
2. オンデマンド講義後の復習は、数回オンデマンドを視聴して内容を説明できるようにする。また、演習の復習は実施した内

容をもとに何を学んだのかを説明できるようにする(2時間)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP4: 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

DP2: 福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

【実務経験】

巻康弘(社会福祉士、認定社会福祉士(医療分野)、認定医療社会福祉士)、近藤尚也(社会福祉士)、鈴木和(社会福祉士・精神保健福祉士)、鈴木真人(社会福祉士、精神保健福祉士、精神看護専門看護師)、宮地普子(看護師)、内ヶ島伸也(看護師)、明野伸次(看護師)、若濱奈々子(看護師)、本家寿洋(作業療法士)、若松千裕(言語聴覚士)、武田涼子(理学療法士)、用田歩(理学療法士)、齋藤隆司(作業療法士)。

【実務経験を活かした教育内容】

社会福祉士、精神保健福祉士、看護師等の実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している